

横浜らしい教育課程の創造



横浜市教育委員会

学校教育企画部長 直井 純

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業への対応や再開後の教育活動実施に御尽力いただきました。学校での教育活動は以前のように進めることが困難となり、教育現場にとって厳しい状況が続いています。そのような中でも、それぞれの地域特性や児童の実態を踏まえた、社会に開かれた教育課程の研究と実践に取り組んできたことと思います。心より感謝申し上げます。

横浜市が策定した「横浜市立学校 カリキュラム・マネジメント要領」では、「横浜教育ビジョン 2030」に掲げる「横浜の教育が目指す人づくりー自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人ー」を実現するために、教育課程の編成等を通じて、取り組むべき教育の在り方を示しています。

横浜らしい教育課程の在り方の一つとして挙げられるのが、「三つ（『授業』『人』『学びの場』）のつながり」です。背景には、横浜の特色である多様性があります。多様性を尊重し、あらゆる枠組みを越えて教育を議論することは、予測困難なコロナ禍において、子どもたちが持続可能な未来社会を切り拓いていくための資質・能力を育み、子ども一人一人が未来の創り手となる可能性を大いに広げることでしょう。

「社会に開かれた教育課程の創造・実践」というテーマのもと研究を進めていく中で、今年度は新型コロナウイルスにより、活動の制限が多く、これまでの手法では研究の推進が難しかったことと思います。そのような中でも、各教科等の研究会で工夫して、実践を通じた検証を進めてきたと伺っております。コロナ禍の中でも研究を推進してきた先生方に深く敬意を表すとともに、小学校教育研究会の益々のご発展をお祈り申し上げます。